交通安全を反復して発信し日々、従業員の安全意識を高める

（室蘭市）
日鋼運輸株式会社

従業員数 77名
車両台数 19台

日鋼運輸株式会社は、１９７９年に創業し、一般貨物自動車運送事業をはじめ、原材料処理や梱包、埠頭での揚荷・荷積、機関車による運送など多岐にわたって営んでいます。

西胆振地方安全運転管理者事業主会・室蘭地区安全運転管理者協会の会員であり、令和6年度交通安全優良事業所として表彰をされています。

マイカー通勤者のために写真つきヒヤリマップを作成

当社では、従業員のほとんどがマイカー通勤をしており、構内の専用駐車場を利用しています。

安全運転管理者がマイカー通勤者の免許証や車検証、任意保険の更新状況をデータで管理し、更新時期が近い人には黄色文字で、書類未提出の人には赤文字で全社メールすることで更新漏れを防いでいます。

ほかにも、マイカー通勤者にはヒヤリマップを作成し、配付しています。とくに冬季はスリップなどの危険場所を写真つきでリストアップし、安全運転するように注意喚起しています。また、室蘭市内での事故発生場所のリストも同様に作成しています。

さまざまな教育を展開し安全意識の向上と事故の抑制を図る

当社は構内で使用する大型ダンプやクレーン車、営業用の普通車など計19台を有しています。

普通車の運転に関して、新入従業員には入社前教育を行っています。教育担当が半日をかけて構内での制限速度やヘッドライト点灯といったルールを教えるなど、入社前から交通安全について指導しています。

運転者の安全意識を高める教育としては、年4回開催している事故防止委員会があります。各係の代表者を集めて開催し、委員会後に各係に戻って展開するという形で教育活動をしています。具体的には、冬道や飲酒といった事柄について注意すべきポイントを絞って解説、周知するというものです。

また、事故の抑制につなげることを目的として、さまざまな安全に関するＤＶＤを鑑賞する教育にも力を入れています。鑑賞後に実施しているアンケートでは、感想のほか、今後の自分の運転や行動に活かしたい点、有効性の自己評価などの項目を設けており、参加者は真摯に回答してくれています。ＤＶＤ鑑賞の経験や感想を係内で伝達することで、より高い教育効果が得られています。

違反者が出た場合の対応は、社内での再教育はもちろんのこと、社外で運転診断を受診させ、自分の性格と安全運転について改めて向き合ってもらうような仕組みを構築しています。

日常的な安全運転管理に事故情報メールやデジタル点呼を活用

北海道警察が発表する最新の事故発生情報を全従業員にメールして、同時に事故防止を呼び掛けています。また、構内

での違反などがあれば、安全委員から各係の代表者にメールし、係内で周知してもらいます。

そのほか、交通安全関連の資料などの掲示物は、従業員の目の留まる場所へ掲示しています。このように交通安全・安全運転をさまざまな手段で反復して発信することで、従業員の安全意識を高めています。

点呼については、昨年よりデジタル点呼システムを導入しました。安全運転管理の効率化にもつながったと感じていますが、体調のチェックは実際に従業員と顔を合わせて行うようにしています。

エコドライブの実践で省燃費・運転技術の向上を図る

当社では、毎月各車両の燃費を確認し、レポートを作成するなどエコドライブにも取り組んでいます。レポートにすることで運転の弱点など説得力のある形で従業員に示すことができ、運転技術の向上にも役立っています。その際には、急発進・急加減速をしないことなどのアドバイスもするようにしています。

地域の活動に参加して社内の安全運転意識の向上につなげる

無事故・無違反を目指す交通安全運動「チャレンジ・セーフティラリー北海道」に長年参加しています。グループ会社を含めると約30チームが参加し、期間中に脱落したチームがあると、どのような違反をしたかの詳細と対策を全社メールして周知します。脱落すると社内に知られてしまうという意識が従業員に芽生え、それも安全運転意識の向上に結びついていると感じます。

地域に貢献する交通安全活動としては、室蘭地区の会員として交通安全啓発のパトライト運動、旗振りのほか、交通パレードにも積極的に参加しています。

こうした活動を通して、社内だけではなく地域から違反者がいなくなることを強く願っています。

安全運転管理については、継続することが大事だと思っています。今後は構内事故を起こさないための教育や事故防止啓発にもさらに力を入れ、継続していきたいと思い活動しています。

▲事故防止委員会の様子

▲(左)独自のヒヤリマップ (右)DVD鑑賞アンケート

▲デジタル点呼の様子

▲令和6年度交通安全優良事業所として表彰を受けた